

岩国基地周辺における令和２年度の航空機騒音の状況

令和３年４月
山口県基地関係県市町連絡協議会

平成３０年３月の空母艦載機移駐完了後、３年目の岩国基地周辺の航空機騒音の状況を取りまとめた。

１ 概況

【月別W値の推移】

- 令和２年度は、前年度(令和元年度)、前々年度(平成３０年度)と比べ、４～５月のW値が低くなっており、一方、１１月以降、特に３月のW値が高くなった。

- ・ １１月の艦載機帰還以降、高いW値を記録しており、特に３月は、訓練が活発化した影響により、月別最高値を示した地点が最も多かった。
- ・ ４～５月は、前年度、前々年度とも、FCLP（空母艦載機着陸訓練）前後の訓練やCQ（空母着艦資格取得訓練）の影響により月別最高値を示した地点数が最も多かったが、令和２年度は、FCLP・CQが岩国基地に帰還せずに行われたこと等により、W値が減少した。
- ・ 前年度は９月に、年度２回目のCQが実施されたが、令和２年度は夏期の艦載機帰還がなく、９月のW値は低かった。

【過去の測定値等との比較】

- 前年度及び前々年度との比較
 - ・ 前年度と比べ、２９地点中１３地点でW値が増加し、増加地点と減少地点はほぼ同数であった。
 - ・ 前々年度から連続して増加したのは６地点で、飛行ルート近辺の基地の北東側、北西側で増加した。
- 移駐開始前（平成２４～２８年度の平均）との比較
 - ・ 約９割の測定地点（２２地点中１９地点）でW値が増加しており、中でも基地北西側、基地近辺の西側、飛行ルート近辺の北東側で増加した。
 - ※令和元年度の状況：２３地点中１８地点で増加
 - ※平成３０年度の状況：２５地点中１９地点で増加
- 沖合移設前（平成１７～２１年度の平均）との比較
 - ＜沖合移設前の騒音の状況が移駐の判断基準＞※沖合移設による新滑走路の運用開始：H22年５月
 - ・ 約８割の測定地点（９地点中７地点）でW値が減少した。
 - ※令和元年度の状況：１０地点中９地点で減少
 - ※平成３０年度の状況：１２地点中１０地点で減少
- 騒音予測コンターとの比較（国から示された移駐後の予測W値との比較）
 - ・ 約９割の測定地点（２５地点中２２地点）で騒音予測コンターを下回っている。
 - ※令和元年度の状況：２６地点中２３地点で減少
 - ※平成３０年度の状況：２８地点中２６地点で減少

【移駐判断時の検証結果との比較】

- 令和２年度の年間W値は、移駐の判断基準としていた沖合移設前のW値と比べると、約８割の測定地点（９地点中７地点）で下回るとともに、騒音予測コンターのW値と比べても、約９割の地点（２５地点中２２地点）で下回っており、前年度、前々年度に続き、当初の予測の範囲内であることを確認した。

《米軍機の運用等の状況》

時 期	主な運用、地元への影響等
4 月～5 月	F C L P 前の訓練（岩国基地周辺で実施） →騒音の増大 →多数の苦情（岩国市 最大 48 件/日(4/17)）
5 月 14 日～6 月 10 日	F C L P（硫黄島で実施）
（FCLP が終了したものから順次開始） ～6 月 11 日	C Q（硫黄島を拠点に洋上の空母で実施） ※前年、前々年は、岩国基地を拠点に九州沖の洋上の空母で実施 →訓練場所への往復に伴う夜間離着陸等による騒音なし →前年、前々年同時期より苦情減少 C Q 終了後、例年と異なり、艦載機は岩国に帰還せず、空母の航海に同行
10 月～3 月	海兵隊 FA-18 → F-35B の機種更新に伴う補完・支援部隊（FA-18）の派遣
11 月 6 日～（現在）	艦載機が岩国に帰還（滞在中） →騒音の増大 →多数の苦情（岩国市 最大 55 件/日(11/24)）
3 月 12 日～4 月 12 日	F-22 の飛来 （岩国基地配備機等との共同訓練の実施）

《空母の横須賀入港日数》

令和 2 年度の空母の横須賀入港日数は、前年度・前々年度や過去10年平均より少ない。

令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	過去 10 年平均
1 8 7 日	2 2 1 日	1 8 9 日	2 0 5 日

2 航空機騒音の指標・測定体制

- 基地周辺地域の騒音の状況について、航空機騒音の総合的な指標であるW値により把握、比較を行った。
- 基地周辺地域においては、現在、国、県、岩国市が設置した騒音測定器（34 地点）により、測定を行っているが、34 地点中1 地点(国設置)は、年度途中で移設があったため、令和 2 年度の測定値は33 地点で整理している。
- 新設・移設により各時期の測定地点数は異なっており、令和 2 年度の測定値（33 地点）と比較可能な地点数は以下のとおり。

比 較 対 象		比較可能 地点数	うち県内
過去の測定値	前年度（令和元年度）	2 9	2 4
	移駐開始前 5 年平均（平成 24～28 年度）	2 2	1 7
	沖合移設前 5 年平均（平成 17～21 年度）	9	8
移駐前に国が提示した騒音予測コンター		2 5	2 0

3 航空機騒音の状況

(1) 月別W値の推移

- 各測定地点（33地点）における月別W値については、艦載機が帰還した11月以降のW値が高くなっており、月別最高値を示した地点数は、訓練が活発化した影響により、3月が25地点で最も多い。
- 4～5月は、前年度、前々年度とも、FCLP前後の訓練やCQの影響により、月別最高値を示した地点数が最も多かったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点からFCLP・CQが岩国基地に帰還せずに行われ、訓練場所との往復が少なくなったこと等によりW値が減少し、月別最高値を示した地点は、2地点となった。
- 前年度は9月に、年度2回目のCQが実施されたが、令和2年度は夏期の艦載機帰還がなかったため、9月のW値は低くなり、26地点において月別最低値を記録している。

《月別最高値の地点数（令和2年度）》

（単位：地点）

	4～5月	6月～11月	12月	1月	2月	3月
月別最高値の測定地点数（全33地点※）	2	0	5	1	1	25
うち県内（28地点※）	2	0	2	1	1	23
主な地点	和木町瀬田(4月) 54.3W 装束町(5月) 63.5W	—	岩国55.0W	周防大島町 西安下庄 59.8W	周防大島町 久賀 58.4W	三角町93.8W 尾津町78.5W 旭町78.0W 川口町77.1W 三笠町74.9W

※5月と3月に同値で最高値を示した地点が1地点あり

《測定地点の月別・年間W値の騒音程度（令和2年度）》

（単位：地点）

各地点の月別・年間W値について、5W幅の各区分に該当する地点数を集計した。

W値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
75～	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	4	5	1
70～74.9	4	3	2	0	1	0	1	5	5	5	4	7	6
65～69.9	6	5	7	7	4	3	7	6	5	7	6	5	5
60～64.9	4	7	4	4	3	4	7	4	7	6	5	6	6
～59.9	18	17	18	21	23	25	17	16	13	12	14	10	15
計	33	33	32	33	32	33	33	33	33	33	33	33	33

※75W以上…航空機騒音防止法による第1種区域（62Lden）に相当
（通年で75W以上を記録している1地点は滑走路に隣接）

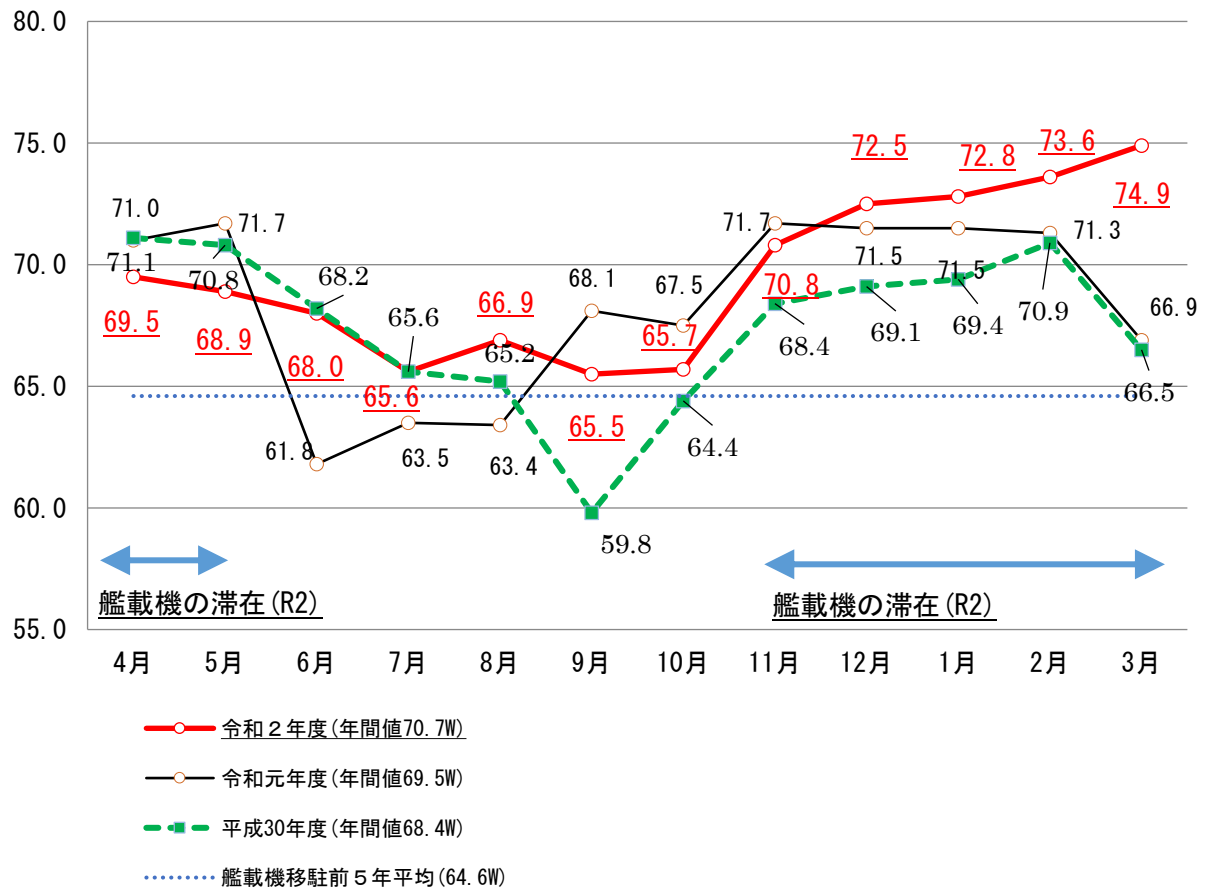
※網掛けは該当地点なし

※6月は1地点で整備のため欠測

※8月は1地点で計測された騒音なし

《月別W値の推移の例：岩国市三笠町》

単位：W値



(2) 過去の測定値との比較

① 前年度（令和元年度）及び前々年度（平成30年度）との比較

前年度と比べ、比較可能な29地点中13地点で増加した。**増加地点と減少地点はほぼ同数**
前々年度から連続して増加したのは6地点で、減少したのは1地点であった。

《前々年度から連続して増加、減少している測定地点》

区分	測定地点名（年間W値の前々年度との増減幅）
増加	基地北東側（飛行ルート近辺） 廿日市市宮島（+3.9）、大竹市阿多田島（+1.1）
	〃 北西側 大竹市サントピア（+3.1）、和木町瀬田（+2.7）、 岩国市三笠町（+2.3）、川口町（+0.9）
減少	基地南西側 柳井市神代（▲1.4）

② 空母艦載機の移駐開始前5年平均（平成24～28年度）との比較

比較可能な22地点中19地点で増加した。**約9割の地点で増加**

《移駐開始前5年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間W値の増減幅）
増加	基地北西側 岩国市三笠町（+6.1）、新港町（+5.6）、 岩国市川口町（+4.7）
	〃 西側（基地近辺） 岩国市旭町（+4.7）、岩国市車町（+4.5）、 岩国市尾津町（+4.3）
	〃 北東側（飛行ルート近辺） 大竹市阿多田島（+4.3）
減少	基地北西側 大竹市サントピア（▲4.8）
	〃 南東側 周防大島町久賀（▲2.1）

③ 沖合移設前5年平均（平成17～21年度）との比較

比較可能な9地点のうち7地点で減少した。**約8割の地点で減少**

《沖合移設前5年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間W値の増減幅）
増加	基地北東側（飛行ルート近辺） 大竹市阿多田島（+5.2）
減少	基地南西側 岩国市由宇町千鳥ヶ丘（▲8.9）
	〃 西側（基地近辺） 岩国市車町（▲7.0）、旭町（▲4.5）、 尾津町（▲4.2）
	〃 北西側 岩国市川口町（▲3.0）

(3) 航空機騒音予測コンターとの比較

比較可能な25地点のうち22地点で予測を下回った。**約9割の地点で予測を下回る**

《騒音予測コンターW値と大きな差があった地点》

区分	測定地点名（年間W値の差）
予測を上回る	基地北東側（飛行ルート近辺） 廿日市市宮島町（+10）
予測を下回る	基地北西側 和木町瀬田（▲18）、大竹市サントピア（▲15）、 岩国市装束町（▲10） 基地南東側 周防大島町浮島（▲11） 基地北東側（飛行ルート近辺） 江田島市（▲10） 〃 西 側（基地近辺） 岩国市車町（▲9）

4 航空機騒音への対応

空母艦載機移駐後の状況を踏まえた騒音対策については、騒音の検証結果を踏まえ、国に対し、令和元年6月に特別要望を、同8月には県市町連絡協議会要望を行ったところであり、令和2年度の県政府要望、県市町連絡協議会要望においても同様の要望を行った。引き続き、移駐後の状況把握に努めるとともに、国や米側において、要望した取組が進められるよう働きかけていく。

《特別要望（令和元年6月）の内容（抜粋）》→令和2年度の政府要望にも反映

◇空母艦載機移駐後の状況を踏まえた騒音対策の推進

- 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施
 - ・ FCLPの直前に行われる訓練のような集中的な飛行訓練について、岩国基地周辺での実施の緩和や訓練場所の分散など、騒音軽減措置の実施
 - ・ CQ実施時において、滑走路の時間外運用や夜間の離着陸を可能な限り控えるなど、運用時間帯への配慮
 - ・ 航空機の飛行方法等に関する岩国日米協議会の確認事項の遵守
- 住民の不安解消に向けた措置の実施
 - ・ 住民生活への影響が大きい訓練の事前通知や、空母艦載機の滞在状況等に関する十分な情報提供
 - ・ FCLPの予備施設指定からの除外
 - ・ FCLPの恒常的な訓練施設の早期整備
- 国による騒音対策の拡充
 - ・ 騒音測定器の増設など、移駐後の騒音状況の更なる実態把握
 - ・ 住宅防音工事の対象拡大など地域の実情に即した防音対策

- ・ 第1種区域等の対象区域の拡大、事務所・店舗等への補助対象施設の拡大
 - ・ 年間W値だけでなく、空母艦載機滞在時の騒音の状況に対応した第1種区域の見直し 等

《県市町連絡協議会要望（令和元年8月、令和2年8月）の内容（抜粋）》

I 騒音対策の強化

- 1 岩国基地における航空機騒音等の軽減
 - 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施（集中的な飛行訓練の実施の緩和など）
 - FCLPの禁止（岩国基地の予備施設指定からの除外など）
 - 飛行実態等に関する情報提供等（住民生活への影響が大きい訓練の事前通知など）
- 2 住宅防音工事等、騒音対策の充実
 - 住宅防音工事対象の拡充（第1種区域の見直しにおける艦載機滞在時の騒音状況の反映）